

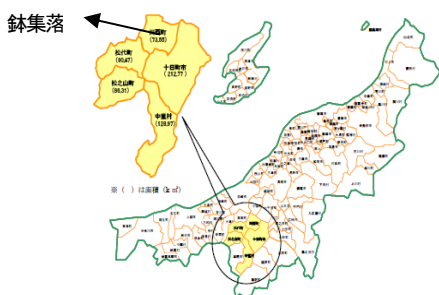
モデル事業名	絵本と木の実の美術館運営事業
活動団体名	NPO 法人越後妻有里山協働機構
ホームページ	http://www12.ocn.ne.jp/~ehon2009/index.html (絵本と木の実の美術館) http://echigo-tsumari.jp (大地の芸術祭)
所属／ 担当者名	NPO 法人越後妻有里山協働機構／天野耕太
連絡先	TEL 025-597-3770 / Mail tsumari@artfront.co.jp
活動地域	新潟県十日町市真田地区鉢集落

● 活動地域の概要

十日町市真田地区鉢集落

人口 1980年 425人 2008年 148人 28年間で65%減(277人減)
世帯数 1980年 95世帯 2008年 60世帯 28年間で37%減(35世帯減)
高齢化率 1990年 25.65% 2008年 42.93% 18年間で17%増
公共交通機関 バス 十日町駅行き 1日7本

- ・真田地区は、十日町市の中心部から西へ6kmほどの位置にある日本有数の豪雪地であり農村地区である。
- ・平成17年3月に、唯一の小学校が廃校となり、その利活用によるコミュニティ創生に向けて「大地の芸術祭」(2009年夏第4回展開催、50日間来場者37万5千人)の取り組みを中心にした活動地域活性化の活動が動き出している



【位置図】



新たな活動拠点として再生される旧真田小学校



大地の芸術祭を積極的に誘致。海外アーティストやボランティアとの交流も続いている。

● 活動地域の課題

真田地区では、少子高齢化にともない平成17年3月末には地区内に唯一あった真田小学校が廃校となるなど、集落のコミュニティと活力の低下が大きな課題となっている。一方、十日町市及び津南町では、中山間地域のこれらの諸問題を解決する方策として全国に先駆け里山や棚田などの豊かな自然の中で、市町全域にわたって現代アート作品の制作・展示を行い地域の活性化をめざす「大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ」を平成12年から3年ごとに開催している。真田地区内においても、集落に展開される作品制作に集落全体でサポートし、来訪者をもてなす心をはぐくんできた。持続的な地域づくりを進めていく過程で、真田地区鉢集落にとって解決しなければならない課題が、以下のとおり明確になった。

①交流の通年化

3年に1度の芸術祭の会期中は来訪者で賑わうが、会期が終わると活気が失われてしまい、冬季は深い雪に閉ざされてしまう。地域に恒常的に人が訪れ、賑わいをつくることで地域の元気を再生する必要がある。

②廃校の利活用

集落住民の心の拠り所であった旧真田小学校の校舎を、(財)地域活性化センター補助事業により、絵本作家田島征三による「絵本と木の実の美術館」として改修できたことから、これを地域資源として地域の活性化のために持続可能な活動を行う必要がある。

③失われつつある地域文化の保存・継承

過疎化、高齢化で地域の知恵や文化、特に地域に古くから伝わる民話や昔話が消えつつあり、これを保存し、将来に伝承していく必要がある。

④多様な主体による集落の担い手づくり

旧5市町村の合併後、役場の機能が縮小しつつある。「大地の芸術祭」の持つアーティストや地域外サポーター・専門家のネットワークを活かし、地域内だけでは担えない課題を地域外の力を補って新しい主体をつくる。

● 活動の内容

(全体)

- ①絵本と木の実の美術館」作家・集落・サポーターによる協働制作、運営
- ②カフェメニューの開発、試作、食器作り、営業
- ③美術館グッズ開発、生産、販売
- ④各種イベント・ワークショップ（小室等コンサート、地元の吉田中学校吹奏楽部を招き曲芸音楽会を開催、田島征三サイン会・トークイベント、絵本作家きむらゆういち&田島征三対談、作品制作ワークショップ、おおかみのおうさま原画展など）の実施
- ⑤集落のまつりの参加（雪まつり、秋祭り、収穫祭等）

(直近1年間の進捗など)

- ① 地域内外への情報発信
 - ・パブリシティ：(テレビ) 金曜パラダイス、MI・DO・RI (雑誌) キャレル、月刊Niigata、新潟 KOMACHI (新聞) 十日町新聞、津南新聞 (市報十日町) 十日町市長&田島征三対談
 - ・全国からの視察受入：韓国領事官、厚生労働省保育指導専門官 他
- ② 美術館来場者数：5/1～10/31 6,500名 美術館ファン・リピーターも増え友の会結成、会員数30。
- ③ 雇用創出：夏季スタッフ4名、有償ボランティア45名（美術館運営、カフェ運営）

● 活動の成果

・全体

(活動の成果、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

- ① 情報発信 美術館紹介媒体を田島絵本のみの状態から写真入りのパンフレットを発行、友の会通信を発行し、多様性を増した。
- ② 来場者数：累計来場者数が四万人を突破（2009/7/26～2010/10/31）：41,328名
- ③ 旧真田小学校で使用されていた文房具をカフェの食器用粘土に押し付けた、オリジナルプレートを開発、販売。



四万人目の来館者には田島征三の絵が授与された



小室等コンサート



きむらゆういち田島征三トークショー



カフェの新メニューとオリジナルプレート



学芸員の美術館解説



新作更新



新作更新



絵本原画展



曲芸ワークショップ

● 今後の課題及び展望

・課題（活動を通して発見された課題等を記入）

① 冬季の営業

通年での営業体制づくり（集客、二次交通、雪・防寒対策、冬季プログラムの充実）

展望：清水を消雪に利用し入口周辺を通常道路にする。（緑の分権改革助成金）

② 若手の安定した雇用

大地の芸術祭期間中は有償ボランティアとして地域のお年寄りが集まる拠点にはなったが、大地の芸術祭開催年以外の集客・収入を得て安定した雇用を創出する。

・展望（今後の取組みや検討について記入）

① 田島征三ファンのネットワーク化：友の会の拡大、友の会会員と作家、集落スタッフの交流会を開催する。一過性ではない集客交流につなげる。多様なイベントを開催する。

② 田島征三×地域の技術、材料を使ったグッズ開発：すでにあるグッズに加え、全国のミュージアムショップやECサイトで売れる商品

③ 田島征三×地域の技術、材料を使った体験メニュー：何度来ても楽しい美術館づくり、リピーターの獲得、作家の文章を掲載した、友の会通信を発行する。

④ 田島征三×地域の技術、材料を使った展示の充実：新しい作品を定期的に更新展示する。スペース、ワークショップルームの活用

● その他（自由記述）